



# アホウドリ通信

No. 3

2024年9月26日



発行：  
(公財)山階鳥類研究所

残暑が厳しい9月でしたが、皆さまいかがおすごしでしょうか。10月中旬に入ると、鳥島、鴛島の繁殖地にアホウドリたちが帰ってきます。島はまたにぎやかになることでしょう。

今回のニュースレターでは、小笠原諸島鴛島で使用するアホウドリの実物大模型「デコイ」の修復を、イベントとして小笠原諸島父島のみなさんと実施した様子をお届けします。みなさんのおかげでピカピカになったデコイたちとともに、アホウドリの繁殖地完全復活に向けてがんばります！



## ■ 生まれ変わったアホウドリ！？ ～小笠原諸島鴛島で使用するデコイを補修しました～

みなさん、「デコイ」という言葉を聞いたことがありますか？ デコイとは、さまざまな目的で鳥などをおびき寄せるために使用する模型のことです。アホウドリの保全活動では、実物大のデコイを用いて若い個体を誘引し、新たな繁殖地をつくる「デコイ作戦」が行われ、大きな成果をあげてきました。デコイ作戦では、デコイの設置と同時に既存の繁殖地で録音したアホウドリの音声も流します（写真1）。これらは、アホウドリがコロニー繁殖（多くの個体が集団で営巣）をする習性を利用したもので、主に若い繁殖前の個体を誘引し、リスクの分散や、より安全で安定した環境で営巣してもらうことを目的としています。絶滅が心配されるコロニー繁殖をする海鳥でよく用いられる手法で、これまで、アホウドリなどのミズナギドリ類のほか、ウミスズメ類、アジサシ類、カツオドリ類などさまざまな海鳥の保全の現場において、世界中で実施されています。日本でも、アホウドリのほかにはウミガラス、ケイマフリ、エトピリカ、コアジサシでデコイを使った保全活動が行われています。

最初にデコイ作戦が実施された伊豆諸島鳥島では、従来の繁殖地が急斜面にあり植生が少なく繁殖成功率が安定しなかったため、島内の比較的平坦で環境がよい候補地で繁殖してもらうことを目的として、1992年から2006年までデコイと音声による誘引を行いました。この場所では、時間がかかったものの、2004年から複数のペアが繁殖を始め、その後急激に増え、現在では700ペア以上が営巣する島内（世界）で一番大きな繁殖地に成長しました。

→鳥島でのデコイ作戦のあらましは[こちら](#)から！



デコイ作戦あらまし

かつてのアホウドリ繁殖地としてその復活を目指す小笠原諸島鴛島では、鳥島で使用してきたものを含む30体前後のデコイを2006年より設置してきました。デコイは、毎年アホウドリが北の海から繁殖地に集まる前の10月中旬までに設置し、ひなが巣立ち、島からいなくなった5月下旬以降に撤収して保管します。ところが、鴛島で使用してきたこれらのデコイは、離島の厳しい環境で長年アホウドリたちを見守ってきたことで、風雨や紫外線による劣化から塗装がはげたり、一部が傷んだりして、使用できないものが増えてきました（写真2）。

そこで、モニタリング調査にも協力してくれている方を中心に、小笠原父島で「アホウドリデコイペイント！」と題して広



写真1 デコイと音声で誘引



写真2 劣化したデコイ

第2回  
アホウドリデコイペイント



2/17 9:00~3:00  
フラットハウス

汚れてもいい服、飲み物、☑など

写真3 デコイペイントイベントのチラシ

く島民に呼びかけました。すると、地元の小学5、6年生やこれまでに保全プロジェクトに参加してくれた人など、1回目は今年1月5日に14人、2回目は2月17日に16人、3回目は9月7日に18人が集まってデコイの塗り直しをしてくれました。まず、はがれかけてしまった古い塗装を落とし、下地塗りをします。そして、実際のアホウドリたちの写真を見て、悩みながらもみんなで協力して丁寧に塗っていき、完成品は一羽一羽が個性的で唯一無二のデコイになりました。デコイのお腹(下側)には塗ってくれた人の名前を書いてもらいました。メッセージを書いてくれた人もいます。

これらのデコイたちは、現在予算の都合などで設置が中断されているため、今は出番がなく、休んでいます。来年以降にまた設置が再開できたら、成長しつつある賀島の繁殖地を盛り上げてくれる予定になっています。

野生動物の管理において、普及啓発活動を通して多くの人に関心を持ってもらうことや、取り組みに参加してもらうことはとても重要です。とくに、管理対象の野生動物が生息する地域の住民が関心を持ち、地元の自然をみんなで大切にするということは、その地域の生物多様性を維持するためにも必要不可欠です。今回のデコイの塗り直し作業を通して、島の人たちに島の宝であるアホウドリやその保全を身近に感じ、さらに関心をもってもらえたのではないかと思います。これからも、地域のみなさんと協力してアホウドリの保全に取り組んでいきます。







アホウドリ寄附サポーターへのご参加、誠にありがとうございます。2024年1月から8月までに、488名の方々からご寄附をいただきました。引き続き、ご支援のほど、何卒よろしくお願い致します。